



だより

1・2年版

No.4 : H28.10.7

編集 : SGH 推進室

発行責任者 : 宮崎 栄治

グローバルリーダー養成講座 京都大学出前講座 が行われました!!

日時 : 9月16日(金)放課後

講師 : 京都大学大学院生 原将也さん

テーマ : 「アフリカ農村で援助について考えよう」(講義・ディスカッション)

参加した生徒達は非常に好奇心を刺激されたようで、講義終了後も質問の列ができていました。ディスカッションでは、2年生がグループのファシリテーターのような役割を果たし、1年生が話しやすい雰囲気を作ろうと努力する姿が素敵でした。また、1年生も積極的に発言したり、質問する様子が見られ、自分たちの力で更に講座を充実させようという意識が垣間見えました。

～講義メモ～

□基本的な農村の生活=自給自足

だから、極度の貧困(1日に1.25ドル以下で生活する)層が農村には多い。

しかし、「1.25ドルしか使えない」のか「1.25ドルしか使わない」のかでは全く違う。

→貨幣でははかれない「豊かさ」がある。

□援助の原点

インタビューや生活文化調査に協力してもらう = お世話になることばかり。

→お世話になっている人たちに何ができるか?

□大切なこと

1. 自分で現実の姿を知る
2. 本当に必要な物は何かをじっくりと考える。
3. 未開=貧困なのか?
4. 広い視野を持つ

援助に正解はないが、考え続けることで、少しでも最適な答えを導き出すことができる。常に探し続けることが大切。



私たちの今している勉強はわりと答えが1つしかないものだけど、答えが何通りもあって、モノゴトの考え方、見方で、大きく違うものだからこそ、難しいと感じた。今日の活動を通して、大学は自分が知りたいことを、とことん突き詰められる、いい所だなと思った。

今まで、1日△△円以下で暮らす人、と聞くと単純に「そんなんじゃ食べ物も買えない!!」と考えていた。しかし、ザンビアのように、そもそもお金を使わない人もたくさんいると聞き、なるほどと思った。自分たちで食べ物をつくり出すからお金は必要ない。そんな生活も素敵だと思う。

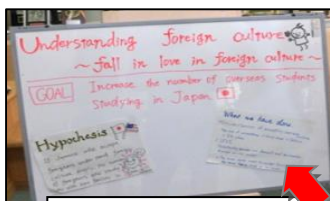
何事も固定観念をもって考えるのではなく、実際の姿を知って、常に「正解や不正解はなく、よりよいかたちを目指す」という言葉が印象に残った。

グループディスカッションで、みんな自分の意見をしっかり持っていて、私の思いつかなかった意見があって、驚いた。私は聞いてばかりになってしまったので、次はもっと意見を言えるようになりたい。

途上国への支援というのはよく話題になるテーマだが、その際に常に先進国からの目線ではなく、現地の人々の目線から、何が問題となっているのか紐解いていくことが重要だと分かった。

SSH(理数科) × SGH(SG コース) コラボ授業実施!!

9月14日(水)7限目「米国研修に向けたプレ・プレゼン大会」と題して、SGコースの生徒達が今まで行ってきた課題研究の途中経過を英語で発表しました。聴衆は理数科の生徒達!!さすがは1年生の時から、英語日本語問わず、情報をまとめて発表することを鍛えてきた理数科。次々と鋭い指摘が飛んできました。



ポスターによる発表



1年生 SG 探究基礎「統計学入門講座」が行われました!!

日時：9月10日(土)エクステンション4時間目

講師：渡辺美智子氏(慶応大学大学院教授) テーマ：「統計学入門講座」

野球部の高校生が、県大会での勝ち残りをかけて統計によるプレーの分析を行った例の紹介があったり、「モテる、モテない」はどのように決まるのか?という問から統計学の方法のお話に入るといった工夫から、統計という学問を身近なものとして捉えることができたのではないのでしょうか。これからの課題研究を進めるに当たって、積極的に取り入れていきましょう。

これからは、データを使うことがとても重要なのだと思った。しかし、すべてを情報化することは、倫理的な問題や、人間がもともと持っていた能力を退化させることになるかもしれないので、兼ね合いが難しいと思った。

データというのは、結果だけでなく、「その後どうすればよいか」を写す鏡であり、それをうまく活かすことが私たちに求められるスキルなのだ分かった。

私は、今日のお話をきいて、グローバル時代に必要な統計思考力とは、モノゴトの新しい価値を見つけ出す力だと思った。21世紀にはデータが武器であり、刃であると思う。

私が講義の中で、印象に残ったのは、「現実に満足しては、課題解決をすることはできない」ということです。この言葉から常に自分と向き合い、客観的に自分を見つめること、そして、見えてきた課題の解決方法を考えることの大切さを感じました



2年生「おもてなし講座」が行われました!!

日時：9月8日(木)7時間目

講師：藤井寛子氏(国際マナー指導家)

テーマ：「グローバル社会で発揮する日本人らしさ～おもてなしから学ぶ異文化理解～」

国際社会から見た日本人の強みから、日本語の丁寧語「お」の概念のお話まで、豊かな海外経験を持つ藤井さんならではの「おもてなし」に関するお話を聴くことができました。



有難いことが当たり前になり、そのありがたさに気付けなくなるという話が、自分にも当てはまると思いました。日々の生活の中で、もっと小さなこと、人との関わりなどを大切にしたいと思いました。

日本人は「和」である「他人を思いやる」文化を基調とする稀な民俗であり、そういった自分だけではなく、他人に対しても考えられるような民族の1人で良かったと切に思う。

「お」という言葉にはとても大切な意味が込められており、それは日本人特有の心であるということにとても驚きました。自分は今まですくは異国にあこがれてたけど、他国をまねるのではなく、独自のものに誇りを持ち、発信していくことが大切だと思いました。

お知らせ!!



1・2年：グローバルリーダー養成講座第3弾
「エンパワーメントプログラム」(旧グローバルリーダーシッププログラム)説明会
10月14日(金)放課後15:30～(i-studio)

昨年度大好評だったプログラムを今年度も行います!!日本へ留学中の優秀な外国人大学生・大学院生たちと、コミュニケーションを通して自分の将来に何が必要かを考え、気づき、行動していけるようになる。そんな成果を目指したプログラムです。詳しい話を聞きたい人は、ぜひ説明会に参加して下さい!!

※説明会参加申し込みはSGH推進室まで!!(10/12(水)締め切り)

